

宮城・東松島市の仮設住宅で誕生したおのくん里親が28万人達成 伊達武将隊とコラボレーション

初めまして。私は東日本大震災で被災をした東松島を知ってもらうための活動をする「おのくんプロジェクト」の岡田まりこと申します。当時仮設住宅で被災者が作ったソックモンキーは「おのくん」と呼ばれました。完成した「おのくん」は、「モノ」ではなく、命が吹き込まれた人間のように扱われました。まるで人間のように扱われたおのくんをほしい人を「里親」と呼びました。そして12年の期間を経て、今年で28万人の手に渡ることができました。

被災地から世界に！ 「おのくん」をデジタルアートで発信



2022年7月14日(水) 19:35

東北放送にて放映された様子



仮設住宅に届いた靴下の人形をきっかけに、その方に作り方を教わった時

「おのくん」は2011年3月東松島の小野駅前応急仮設住宅で誕生しました。当時仮設住宅が狭く、震災で仕事もなくなり、先の見えない暮らしで暗い雰囲気が続きました。そんな時、仮設住宅の子どもさんに届いた靴下で作ったぬいぐるみのプレゼントがきっかけで、支援物資で届いていた靴下でぬいぐるみ製作を始めました。小野駅前応急仮設住宅で作っていたので、縫いぐるみは「おのくん」と名付け、またお母さん達はいつも「めんどくしえ」とぼやきながら作っていたので、苗字は「めんどくしえ」と付けられました。

「おのくん」をもらってくれる「里親」を募集したところ、今年で累計28万人とつながることができました。

現在では世界防災フォーラムマスコットキャラクター／石川の自衛隊／沖縄航空自衛隊などの広報大使も務めさせていただいており、多数の著名人ともコラボさせていただいています。

そんな「おのくん」のコンセプトは「人との関わりを見つめること」「感じることを大事にすること」「世界に目を向け、私たちが住む環境を見つめなおし何かできるか考えて動くこと」「子どもたちが暮らす未来は優しさにあふれる社会になること」

コロナになり靴下が手に入らなくなり、今までの繋がりから靴下メーカー様のご協力で残糸を使って靴下の制作が出来るようになりました。そこから今回のなりきりおのくんが誕生することになりました。

そこで、これまでにご縁のあった「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」とのコラボレーションをすることになりました。2010年に結成された伊達武将隊は、東日本大震災以降は、観光復興も掲げて活動され、おのくんの趣旨にもご理解いただいております。ぜひこの活動がより多くの人に届き、人と人のつながりを大事にし、住む環境も大切にしていければと思います。

大変お忙しいとは存じますが、この件につきましてご取材いただき、報道のお力でより多くの皆さまへ届けるきっかけとしていただけましたら幸いです。

【本件に関するお問い合わせ先】

おのくん事務局

〒981-0301 宮城県東松島市牛網字上江戸原4-1 東松島市陸前小野駅前「空の駅」

Mobile : 0225-90-3314 / onokun.h@gmail.com